

2023年11月14日

いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社

2023年冬季 岩手県内ボーナス調査について ～ ボーナス受取予想は二極化が鮮明 ～

いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社（代表取締役 佐々木泰司）は、年に2回（5月、10月）実施している「岩手県内ボーナス調査」の2023年冬季調査結果を以下のとおり公表します。

2023年冬季ボーナスの受取予想

「増加」	21.5%	（前年調査比	6.1ポイント増）
「前年並み」	58.7%	（	10.5ポイント減）
「減少」	15.7%	（	1.2ポイント増）
「支給なし」	4.1%	（	3.2ポイント増）

※(注)1. 2年連続で支給がない回答者を除く構成比

2. 「増加」は新卒者など前年の支給がなかった場合を含む

本調査の調査要領と調査結果の要約は別紙のとおりです。

詳しくは11月30日に弊社ホームページへ掲載する「Research Report 2023年12月」をご覧ください。

《問い合わせ先》

いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社
経営支援部 地域経済調査担当 菊池 祐美
TEL：019-622-1212 FAX：019-654-8059

2023年11月14日

2023年冬季
岩手県内ボーナス調査

いわぎんリサーチ&コンサルティング株式会社
代表取締役 佐々木 泰司
盛岡市中央通一丁目2番3号
(担当 経営支援部 地域経済調査担当 菊池 祐美)
TEL 019-622-1212

＜ 調 査 要 領 ＞

調査内容	県内の給与所得者における2023年冬季ボーナスの支給見通しや使途など																																																																	
調査時期	2023年10月 調査周期：年2回（5、10月）	調査方法	インターネットリサーチ																																																															
調査対象者	県内の給与所得者	有効回答者数	644人																																																															
回答者属性	下表のとおり <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">全体</th> <th colspan="2">性別</th> <th colspan="2">職業別</th> <th colspan="2">独身・既婚別</th> <th colspan="5">年齢階級別</th> </tr> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th>男性</th> <th>女性</th> <th>民間(会社員)</th> <th>公務員</th> <th>独身</th> <th>既婚</th> <th>30歳未満</th> <th>30歳台</th> <th>40歳台</th> <th>50歳台</th> <th>60歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">回答者数(人)</td> <td>644</td> <td>402</td> <td>242</td> <td>539</td> <td>105</td> <td>296</td> <td>348</td> <td>97</td> <td>168</td> <td>197</td> <td>146</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">構成比(%)</td> <td>100.0</td> <td>62.4</td> <td>37.6</td> <td>83.7</td> <td>16.3</td> <td>46.0</td> <td>54.0</td> <td>15.1</td> <td>26.1</td> <td>30.6</td> <td>22.7</td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d9ead3;">平均年齢(歳)</td> <td>42.6</td> <td>44.3</td> <td>39.7</td> <td>42.6</td> <td>42.4</td> <td>40.0</td> <td>44.7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				全体	性別		職業別		独身・既婚別		年齢階級別					男性	女性	民間(会社員)	公務員	独身	既婚	30歳未満	30歳台	40歳台	50歳台	60歳以上	回答者数(人)	644	402	242	539	105	296	348	97	168	197	146	36	構成比(%)	100.0	62.4	37.6	83.7	16.3	46.0	54.0	15.1	26.1	30.6	22.7	5.6	平均年齢(歳)	42.6	44.3	39.7	42.6	42.4	40.0	44.7	-	-	-	-	-
	全体	性別				職業別		独身・既婚別		年齢階級別																																																								
		男性	女性	民間(会社員)	公務員	独身	既婚	30歳未満	30歳台	40歳台	50歳台	60歳以上																																																						
回答者数(人)	644	402	242	539	105	296	348	97	168	197	146	36																																																						
構成比(%)	100.0	62.4	37.6	83.7	16.3	46.0	54.0	15.1	26.1	30.6	22.7	5.6																																																						
平均年齢(歳)	42.6	44.3	39.7	42.6	42.4	40.0	44.7	-	-	-	-	-																																																						

＜ 調 査 結 果 の 要 約 ＞

1. 受取予想

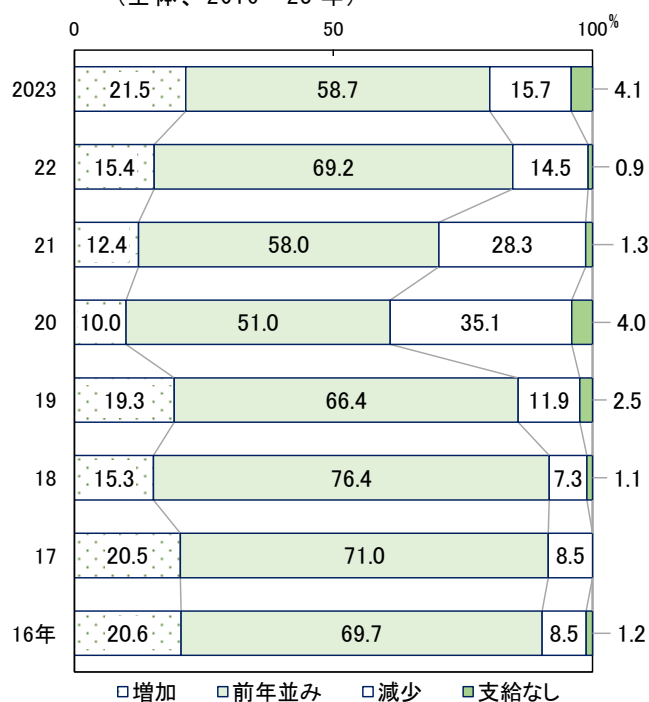
●二極化が鮮明

2023年冬季ボーナスの受取予想は「前年並み」の支給があると回答が58.7%（前年調査比10.5ポイント（以下、p）減）で最も多く、次いで「増加」が21.5%（同6.1p増）、「減少」が15.7%（同1.2p増）、「支給なし（※前年は支給あり）」が4.1%（同3.2p増）となった（図表1）。「減少」と「支給なし」が前年を上回り、「増加」は現在の分析方法で比較可能な16年以降の冬季調査で最も多かった。

性別で比較してみると、男性、女性とも「前年並み」が低下した一方、「増加」が上昇し、特に女性は上昇幅が10pを超えるものとなった。男性は「減少」も上昇し、前年はなかった「支給なし」が3.4%となった。また、女性は「減少」が低下したものの、「支給なし」の割合は上昇した（次ページ図表2）。

職業別に見ると、民間（会社員）で「前年並み」と回答した人の割合は58.9%と前年に比べ低下した一方、「増加」が上昇し、「減少」と「支給なし」も前年を上回った（次ページ図表2）。

図表1 冬季ボーナスの増減予想
（全体、2016～23年）



（注）1. 2年連続で支給がない回答者を除く構成比
2. 「増加」は新卒者など前年の支給がなかった場合を含む
3. 四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある

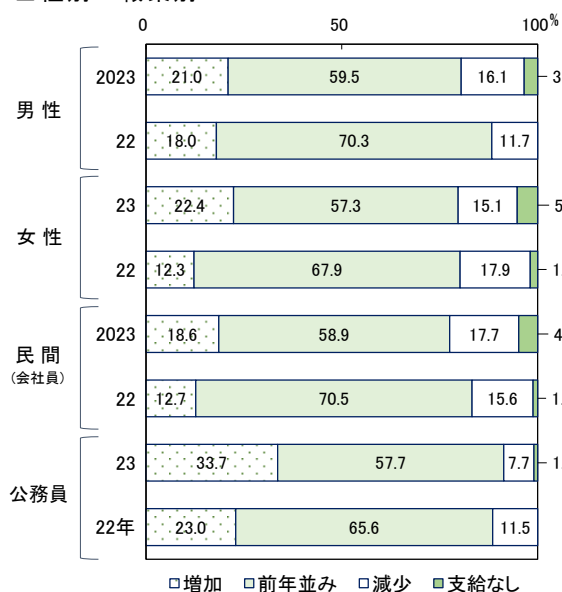
公務員は「前年並み」と「減少」が低下し、「増加」が10p以上の上昇となった。これは8月の人事院勧告で国家公務員のボーナス支給率（月数）が引き上げられたほか、本県の人事委員会勧告においても県職員の支給率が引き上げとなったことが要因とみられる。

年齢階級別では、すべての年代で「増加」が上昇した。30歳未満は「増加」と「前年並み」でおよそ9割を占め、各年代の中で唯一「減少」が低下した。また、30歳台と40歳台では「増加」と「減少」のいずれも上昇したほか、30歳台は前年はなかった「支給なし」が5.3%となった。さらに、50歳台は「増加」が7.0pの上昇となったほか、「減少」もわずかながら上昇した（図表2）。

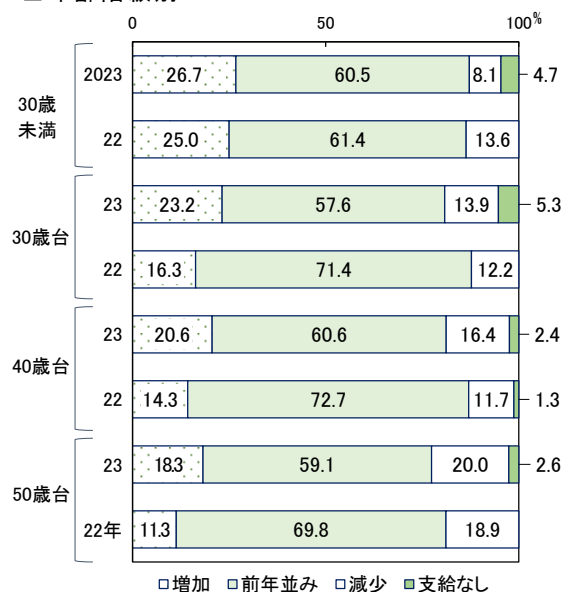
今回のボーナス支給予想では、「増加」の回答が上昇し、「減少」と「支給なし」の割合も前年を上回った。賃上げの動きなどを受けてボーナス支給予想に明るさが見られる反面、人件費や原材料費といったコストの上昇などを受けた収益状況の厳しさなどから「減少」や「支給なし」の回答も上昇し、この冬のボーナスの受取予想には二極化が見られる結果となった。

図表2 冬季ボーナスの増減予想（2022、23年）

■性別・職業別



■年齢階級別



- (注) 1. 2年連続で支給がない回答者を除く構成比
 2. 「増加」は新卒者など前年の支給がなかった場合を含む
 3. 年齢階級別の60歳以上は回答者が少ないため省略する
 4. 四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある

2. 使途

●支出の増加にボーナスを充てる動き

次に、ボーナス支給があるとした回答者（民間、公務員）に対して、その使途について尋ねた（複数回答）。

全体では「消費」と答えた人の割合が72.0%で最も多く、次いで「貯蓄・投資」が49.4%、「返済」が38.4%となった（図表3）。

「消費」の中身を見ると、「生活費の補填」が40.7%と最も高く、次いで「買い物」が30.5%、「旅行・レジャー」が20.3%となった。

新型コロナウイルスへの警戒感が弱まる中で経済活動の正常化が進んでいることなどから「買い物」や「旅行・レジャー」が使途として選択されているほか、「生活費の補填」が最も高い割合となるなど、物価の上昇による支出の増加にボーナスを充てる動きも窺われる。

図表3 冬季ボーナスの使途（複数回答）

単位：%、p

	全体	性別		独身・既婚別	
		男性	女性	独身	既婚
消費	72.0	72.9	70.3	71.6	72.4
生活費の補填	40.7	40.2	41.8	37.8	43.0
買い物	30.5	31.3	29.1	32.0	29.4
旅行・レジャー	20.3	20.8	19.2	18.7	21.5
趣味・娯楽	13.5	13.4	13.7	19.6	8.9
外食	10.8	12.2	8.2	10.2	11.3
教育費	10.2	10.7	9.3	3.1	15.7
交際費	7.7	8.6	6.0	8.0	7.5
その他	3.9	3.9	3.8	4.0	3.8
返済	38.4	39.0	37.4	33.3	42.3
住宅	13.9	17.9	6.6	3.1	22.2
クレジット	13.7	13.4	14.3	16.4	11.6
自動車	12.2	11.3	13.7	13.3	11.3
教育	2.3	2.7	1.6	0.0	4.1
その他	11.4	11.9	10.4	11.6	11.3
貯蓄・投資	49.4	50.6	47.3	54.7	45.4

(注)1. 「支給がある」を選択した回答者に占める構成比
2. 設問内容を前回調査（23年夏季）から変更したため前年比はない